



中国平安  
PING AN



arto Ping An Team Thailand  
2020 SUPER GT RACE REPORT

## 第8戦 富士スピードウェイ（静岡県）

arto Ping An Team Thailand は、11月28日～29日、静岡県/富士スピードウェイで開催された2020 SUPER GT シリーズ第8戦に参戦しました。ドライバーにはショーン・ウォーキンショーとマティアス・ベツシェを起用し、日本側スタッフによるチーム体制での参戦です。

例年より秋が深まった時期に開催されるシリーズ最終戦では、コンディションのデータがないうえランキング上位車両がウェイトハンディを全面的に下ろすため、苦戦が予想されます。晴天午前9時から始まった公式練習では、まずウォーキンショーがステアリングを握ってコースインしました。

ウォーキンショーは、ゆっくりタイヤを暖めながらマシンとコースを確かめ、2回のピットインを挟んで19周を走行し、ピットへ戻ってベツシェに交代しました。ウォーキンショーのベストタイムは1分38秒483で、出走30台中28番手でした。

交代したベツシェはコースインした直後からタイヤにバイブレーションを感じて3周を走ったのみでピットへ帰還しました。チームは、タイヤを前後ともニュータイヤへ交換、ベツシェをコースへ送り返しました。ベツシェは4周を走り、それまでのベストとなる1分38秒166を記録、走行を終えました。公式練習を通し、低温状況でタイヤの発動が不安定であるという問題が浮上しました。タイムの順位は28番手でした。

### ■公式予選

予選が始まる直前の午後1時過ぎ、気温は13度、路面温度は17度まで低下しました。arto RCF GT3 は公式予選 Q1 B グループに出走、アタックは前戦のベツシェに替わりウォーキンショーが担当しました。コースインしたウォーキンショーはタイヤのウォームアップを行いましたが高々内圧が上がらず満足いく感触が得られません。5周目ようやくタイムアタックにかかりましたがタイムは1分39秒084にとどまり、この時点でチェッカーフラッグが振られてしまったので2回目のタイムアタックはできずに走行を終えました。タイムは出走14台（1台は不出走）中13番手でQ1突破はならず、スターティンググリッドは25番手と決まりました。

### ■決勝レース

日曜日の富士スピードウェイは雲が多めながらも晴れ、午後1時から66週の決勝レースが始まりました。スタート時点で気温は9度、路面温度は17度と冷え込みました。チームはスタートドライバーをウォーキンショーにまかせ、ミディアムソフトタイヤを装着して決勝レースに送り出しました。

低温を考慮して、フォーメーションラップが通常のレースよりも1周多い3周にわたって行われましたが、それでもスタートしたウォーキンショーはタイヤのグリップ不足を感じ、ポジションは守ったもののペースは上がりません。

しかも6周を過ぎた頃からタイヤのグリップ低下が始まり、ウォーキンショーは苦しい戦いを強いられることになりました。

チームは義務周回数を満たした段階でウォーキンショーを当初の予定より早めの 20 周でピットインさせドライバー交代を行うとともに、同じミディアムソフトタイヤながら構造が異なりタイヤライフが長いと考えられるタイヤを装着、マシンをコースへ送り返しました。しかしステアリングを引き継いだベツシェも、ウォーキンショー同様ウォームアップに苦慮し、ようやくタイヤが発動してもデグラデーションやピックアップによるグリップダウンに悩むようになりました。

ベツシェは徐々に順位を落としながらも周回を重ねましたが、走行続行が困難になったため、チームは 25 周を走った段階でピットインさせてタイヤを交換、残りの周回数を消化する決断を下しました。しかし気温がスタート時よりも低下してきたこともあり、交換したタイヤも十分なグリップを発揮せずコースに戻ったベツシェは苦しい走行を強いられたまま、12 周を走ってトップから 4 周遅れのクラス 26 番手でフィニッシュしました。この結果、チームは完走ポイント 1 点を獲得しました。シーズン通算獲得ポイントは 15 点でシリーズランキングは 29 位でした。

#### ■正式結果

公式予選 クラス 25 位（出走 30 台） Q1:1 分 39 秒 084 Q2:DNS

決勝 クラス 26 位（出走 29 台） 4 周後れ

#### ■コメント

A ドライバー：シヨーン・ウォーキンショー

「チャレンジングな週末でした。この週末のコンディションが厳しくて、予選では 1 ラップしかアタックできずうまくいかなかったのが残念です。レースでは、鈴鹿、もてぎとタイヤライフに問題があったので、今回はハード目のタイヤを選んでスタートしたこともあって、ドライビングはとてもチャレンジングでした。それでピットインを早めにしたんですが、マティアスもやはり同様の状況になってしまったようです。ペース自体はそれほど悪くはなかったけれど、とにかくタイヤライフに問題がありました。このシーズン、ハードにチャレンジしてきましたが、納得できる結果を残せなかったのが残念です」

B ドライバー：マティアス・ベツシェ

「クルマを引き継いでからはブッシュしようと思いましたが、タイヤのマネージメントが非常に難しく 20 周走るのがやっとで、残りのレースを走りきるためにはピットインしてタイヤを交換せざるをえませんでした。この週末、チームとともに様々なセッティングを試しましたし、ドライバーとしてもいろいろドライビングスタイルを変えて工夫して、最大限の努力をしたつもりですが、残念な結果に終わってしまいました。可能であれば来年も日本へ戻ってきて、もっと進歩した状態でチャンピオンシップを争う戦いがしたいと思っています。そのためにもどうすればいいのかを考えます。ぼくは戦い続けますよ」

チーム監督代行：松浦祐亮

「1 年の最後、気温が低い中でのレースになりました。決勝中は、本来のペースでは 3 周から 5 周しか走れず、その後はまともに走れない状況になってしまうという状況に陥りました。それで早めにピットに入って、少し違う種類のタイヤにしてみたんですが結果的にはほぼ同じでした。今年の我々は、海外チームとしてドライバーも変えてエンジニアも海外からという体制で戦う予定でしたが、岡山のテストが終わった段階で新型コロナの問題が大きくなって、すべて振り出しに戻って、いろいろ厳しいシーズンになってしまいました。それでも、少しでもいいレースをと思って頑張りましたが結局 1 レースも納得できる状態で戦えず、ドライバーやメカニックには申し訳ないことをしました。日本に来られな

かったオーナーのアットさんにも良い報告ができなくてがっかりしています」

チーム監督：ステポン・サミタチャ (Suttipong Smittachartch)

「とうとう今年は1回も現場へ行くことができずがっかりしています。来年はしっかりと体制を整え本来の力を発揮して戦おうと思います。応援をよろしくお願いします」